



夏野菜の準備中②



ゴマ粒よりも小さな種を蒔いて育てているミニトマト。本葉が出始め、自分の力で光合成が出来るようになりました。しかし茎は爪楊枝よりも細く、高さも1~2cmと小さく、まだまだ目が離せません。



こちらはナスの苗。種はゴマ粒とちょうど同じぐらいの大きさです。この時点で既に茎がナス色を帯びています。これが夏には木のように太くなるのですから、その生命力、成長力はすごいですね。

★ミニトマト、ナスは2月から育てています
テントウムシがあちこちで見られ、モンシロチョウも飛ぶ季節になり、ようやく春らしい季節になってきましたね。この時期に少しずつ大きくなってきているのが高柳場長が育てているミニトマトやナスの苗です。

ミニトマトやナスは夏野菜なのですが、種を蒔くのは寒い2月。今年は2月18日に種を蒔きました。毎年、大体同じ時期に種を蒔きますが、6月下旬の出荷までなんと約4ヶ月も育てなければいけないんですね。そんなミニトマトやナスの種はゴマぐらいの大きさで、本当に小さいのです。そのため1粒蒔きになるよう注意しながら丁寧に蒔きます。また暖かくなないと育たないためビニールハウスの中にビニールトンネルを作り、さらにその中に温床を作り、その上に育苗箱を置いて育てます。

種まきから大体10日ぐらいで発芽し、1ヶ月ぐらいで本葉が出始めます。その間、乾燥しないように水やりをし、暖かい日は換気をしないとダメです。ところが、今年は3月上旬の天候不順の続いた時期にパッと太陽が出る時がありました。その日は、ついつい換気を忘れてトンネル内が高温になり、半分ぐらいが枯れてしまったそうです。「高柳さん！弘法も筆の誤りですか？」などと資材屋さんと言われたそうですが、高柳場長も「ミニトマトを作り始めて以来、こんなことは初めてだ」と苦笑しています。同時並行で稲の種蒔きをし、これからはカボチャの種蒔きもあります。夏野菜の種蒔きや育苗など、まだまだ忙しい日々が続きます。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎2L人参の在庫があります。5kg、10kg、15kgと必要に応じてご注文下さい。